

J02-06 オールの概要

Oars : (Sweep Oars and Scull Oars)

オールは、船を進めるための重要な道具です。木製ブレードやカーボンシャフトは取扱に十分注意しましょう。

1 基本構造

Structure

オールは、水を押すブレード、シャフト、支点となるスリーブとカラー、手で握るハンドルなどで構成されています。

2 ブレード

Blade

ブレードは水を押す部分で、従来は木、現在は複合繊維が主流です。木のブレードはデリケートで破損しないよう注意して扱わなければなりません。複合繊維製のブレードは、丈夫で使い勝手が良いです。

ブレードの形状は歴史の中で進化してきました。1980年代にはほぼマコン型に落ち着いていました。しかしバルセロナ五輪(1991)以降に、非対称形状のビッグブレード(コンセプト社製)が主流となり、また90年代後半では、さらに流体力学的検討が進んで、スムーシーなどのブレードが登場しました。ブレード形状については現在も少しずつ進歩しています。



マコンブレード(左)とビッグブレード(右)

3 シャフト

Shaft

シャフトは、オールの柄、棒状部分のことです。材質は従来は木製の張り合わせで、ピボットを除き中空でした。現在は炭素繊維を主材としたカーボンシャフトで、ほとんどが中空のパイプです。

カーボンシャフトは、従来の木製のオールに比べ、非常に軽く、強く耐久性もあり、通常のローイングによる負荷ではほとんど折れる心配はありません。しかし、誤用や不適切な保管、艇の衝突などでは意外に簡単に折れ、脆い一面もあります。シャフト部分は特に不用意に傷つけたり、日中に長く屋外に放置するなどということのないよう、慎重さが必要です。



シャフトは大きくカーボン製(左)と木製(右)がある。

4 スリーブとカラー

Sleeve and Collar

オールロックと接触するピボット(支点、フルクラム)は、スリーブ(さやの部分)とカラー(つばの部分)で構成されます。材質は、硬質のプラスチック製が主体です。カラーの位置をかえることで、インボードやてこ比を調整できます。

スリーブとオールロックの摩擦(抵抗)は、フェザー・スクウェア動作を妨げます。摩擦を減らすために、シリコン系の潤滑スプレーを吹くのが良いでしょう。プラスチックスリーブの場合は、潤滑剤は不要と言われてはいますが、潤滑剤を使用すべきと考えます。(潤滑剤を使用しないスリーブは摩耗が早く、フェザーターンが重くなります)。

なお従来は、グリスを塗布していました。グリスは、安価で潤滑能力と持続性も良いのですが、反面、砂ぼこりなどがつきやすくかかってざらついたり、またプラスチックを変色・変質してしまう短所がありました。

すり減ったスリーブやカラーは交換します。



スリーブとカラー

5 ハンドル

Handle

手で持つところは、木、アルミニウム系の軽合金、複合繊維などでできています。表面材としてはゴム、ウレタンなどのグリップカバーがかぶせてあります。木の場合は、そのままのこともあります。自前でグリップテープを巻くこともあります。ハンドルに求められる機能は、握りやすく、濡れても滑りにくいこと、適度な柔らかさと大きさなどです。ハンドルは、漕手の手に合わせた太さを選択するか、または木製の場合は整形します。

また最近のオールは、インボードが2重になっていて、長さを調整できるものが主流になりつつあります。しかし、このタイプは、水が内部に入ってしまうことがありますので、日常の点検に注意し、特に、沈した後は、分解して点検しておきましょう。内部に浸水したら、排水後、そのまま乾燥させます。

オールは大切な手の延長です。神経を研ぎ澄ませ、ブレードの先が指の先のように敏感になり、水の冷たさを感じられるようになれば...



スカルのハンドル。長さが調整できるタイプ。